

ドナウ通信

No. 58

目次

新年のご挨拶	駐ハンガリー大使	稲川 照芳	2
	日本人会会長	伊藤 和矢	3
新年を迎えて～変化の年	日本商工会幹事	石嶋 弘	4
日本人学校の設立について	日本人学校設立準備委員会		6
日本人会と商工会の活動についての提案	盛田 常夫		12
随想			
ハンガリー・フェンシング生活	山本 憲一		19
ああゴルフ人生 ～其の二～	石嶋 弘		21
ゴルフとYシャツとワタシ	奥野 竜司		24
ハンガリーでの運転	大古 慶太		26
私の見たハンガリー建築の魅力	水野 貴博		28
補習校児童作文			
「文化祭」	小池 太郎 / 秋澤 謙吾 / 上坂 緑 / 村松 孝訓 翠 直孝 / 上坂 桃 / 村松 佳奈		32
スピーチコンテスト 入賞作品			
出会いと別れ	中学部二年	高橋 真帆	35
障害は個性	中学部三年	佐藤 英陸	
書籍紹介	バラバシ著『新ネットワーク思考』(NHK 出版)		38
ハンガリー日本人会事務所移転のお知らせ			43
編集室より			44



ご挨拶

駐ハンガリー大使

稲川 照芳

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

皆様におかれましては、様々な思いや願いを込めて新しい年をお迎えになったことと存じます。昨年はイラク戦争に象徴されるように、いろいろな意味で世界は米国の年でした。今年も基本的にはこの基調は変わらないまでも、私どもが住んでいる欧州が、ある意味で主要な要因となる年であると思えます。すなわち、五月には中東欧諸国をはじめとする十カ国が欧州連合（EU）に加盟しますが、これは第二次世界大戦以降の欧州の分断に、最終的な終止符を打つことを意味し、また、欧州統合の歴史にとっても、七十年代初めの英

国をはじめとする欧州自由貿易連合（EFTA）諸国のEC加盟と並ぶ画期的な里程碑になると思うからです。これによって、欧州が政治、経済、安全保障等の面で一層の統合された力を発揮し、世界の平和と安定のためにより強力な役割を果たす大きな一歩を踏み出すものと考えています。

日本は米国との同盟関係のもとに今日の繁栄を築き、また、アジア太平洋をはじめ、世界の平和と安定に貢献する道を歩んで参りましたが、拡大し存在感の増した欧州との一層の協力は、世界の発展と協力に対する我が国の努力を一層助長することになると思えます。その意味で、ハンガリーを含む中東欧諸国のEU加盟は日本にとって大きなチャンスと捉え、加盟に伴う問題についても、EU及び新規加盟国と協力しつつ、これを克服していくべきであると思えます。そしてハンガリーとの関係

においても、これまで皆様の耐えざる努力により培われてきました良好な政治、経済、文化面にわたる我が国との関係を、更に強化すべく力を合わせていきたいと考えております。

明二 五年の日本・EU市民交流年は、そのためにも願ってもない好機であり、在留邦人の皆様及びハンガリー官民の関係者とともに、この交流年が日・ハンガリー関係の一層の深化と拡大にとって意義あらしめるべく、今から準備を始めたいと思えます。

本年はまた、日本人学校の明年春開校に向けて重要な年であり、日本人会の皆様の一層のご支援をお願い致します。

新しい年を迎えるにあたり、皆様のご健勝と発展並びに本年の平和をお願いご挨拶と致します。

平成一六年 元旦

新年のご挨拶

日本人会会長

伊藤 和矢

ハンガリー日本人会の皆様、新年明けましておめでとうございます。ハンガリーがEUに加盟する記念すべき年が明けました。二〇〇四年が皆様方にとりまして、希望に満ちたものとなりますことを心より祈念致します。

ハンガリー日本人会は個人会員総数五〇〇名を超え、商工部会には約四〇社が加盟、補習授業校に通う生徒の数も七〇名を超える大きな所帯となつてきております。昨年に引き続きまして、会長の大役を仰せつかることになりました。昨年一二月の日本人会総会でご承認頂きました新しい理事の方々の力をお借りして、本年もなんとかこの大役を果たしていきたいと考えています。

昨今の日本の情勢を見ますと、経済指標には回復の兆しが見えておりますが、円高、年金問題、自衛隊のイラクへの派遣、テロとの戦いなど、いまだ多くの問題を抱えていると言わざるを得ません。海外に生活する我々日本人も、安全ということについて、今まで以上に真剣に考えていかなければならない時が来ていると思います。この為にも、大使館と日本人会が今まで以上に密接な連携を取ることに、在留邦人の安全を考えていくことが必要になってきていると考えます。

ハンガリーはいよいよ本年五月EUに加盟します。昨年一年間は、EU加盟を控えながらも、GDP成長率の低迷、財政と経常収支の双子の赤字を抱える中で通貨フォリントが大きく売られ、政策金利が大幅に上がるなど、必ずしも経済が好調だったとは言えないと思います。EU加盟により、物価、賃金などを始めと

してどのような変化が現れるか、なかなか判断が難しいところですが、いずれに致しましても現在の会員皆様の多くの方々が、この歴史的な瞬間を当地で迎えられることになると思います。私事で誠に恐縮ではありますが、以前ドイツに駐在しておりました際に、東西ドイツの再統合という歴史の大きな変換を経験しており、欧州で仕事をし、生活することの喜びを感じています。

ハンガリー日本人会が正式に法人登録が完了しました後の二度目の決算（二〇〇三年）をまもなく取り纏めることとなります。昨年は商工会とともども経費の削減に努めました結果、なんとか予算内で抑えることが出来ました。本年の活動内容につきましても、改めまして各担当理事と相談・検討の上、昨年以上に経費の削減に努める所存であります。

本年は二〇〇五年四月開校を目指してあります全日制日本人学校設立

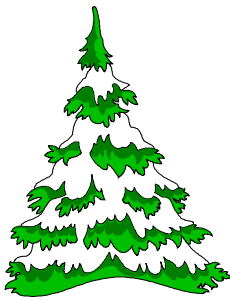
に向けての作業が本格化してまいり
ます。昨年夏に発足致しました設立
準備委員会の委員の方々には、この
間週末を度々返上して頂き、多くの
問題を一つ一つ検証し、方向付けを
して頂きました。また校舎の賃借に
関しましては、特に十二区長との交
渉におきまして、大使館の瀧田公使
に大変お世話になりました。この欄
を借りまして御礼申し上げます。

では、日本国政府よりの援助がござ
いませので、商工部会加盟各社に
は経済環境が大変厳しい中、多額の
ご寄附をお願いすることとなります
が、昨年十一月開催の商工部会例会
におきまして「海外における日本人
子弟の教育」という大局的見地から、
出席された全社よりご賛同を頂けま
したことに、改めて御礼申し上げ
ます。

日本人学校開設までには、文部科
学省、外務省における予算化、派遣

される教職員の数など、まだまだ解
決しなければならぬ問題が山積し
ております。また、補習授業校の今
後の在り方につきましても、検討し
ていかなければなりません。全日制
日本人学校設立につきましては、設
立準備委員会の委員の方々のみなら
ず、全ての在留邦人の問題とお考え
頂き、忌憚のないご意見をお寄せ頂
きたいと考えておりますので、どう
ぞ宜しくお願い申し上げます。

本年もハンガリー日本人会の活動
に積極的にご参加頂きますようお願い
致します。



新年を迎えて 変化の年

日本商工会幹事

石嶋 弘

新年明けましておめでとうござい
ます。日本商工会二〇〇四年度幹事
の石嶋と申します。

私は一九九一年よりハンガリーに
在住しておりますが、商工会には一
九九九年より参加させていただいて
おります。その間、二〇〇〇年から
は日本人会および補習校の法人化、
昨年からは日本人学校設立の問題な
ど、日本人社会にとつての大きな変
化の時期を体験いたしました。これ
らの問題に関してはハンガリーに駐
在されている多くの邦人の方々、ま
た、日本人会の運営に現地でご協力
いただいているの方々にご尽力いた
だきました。あらためて皆様に感謝申
し上げます。

本年は、日本人学校設立実現のためにさらなる検討・調整が必要であるだけでなく、ハンガリーのEU（欧州連合）加盟に向けて日系各企業は準備・対応という重要な課題があります。このような時期に商工会の幹事となり、その責任の重大さを感じております。そこで、責務遂行のため、自分なりに以下のような目標を立てました。

一・小さなことでも良いからできることからこつこつと実現する

昨年一二月の例会では、会員各企業の方から様々なご意見・ご要望があり、どれも十分納得できるものでした。一方で、私にとっては本業の多忙による時間的制約もあり、これらの要望に十分対応するのは難しいであろうとも感じております。そこで、大きな目標を立てて未実現で終わるより、身の回りにある小さなところから少しずつ実行していこうと

考えております。

二・インフォーマルな意見もできるだけ代弁し、検討する

小さな日本人社会のハンガリーでは、会社関係の事情などから自分の意見を公にすることが難しいこともあるかと思えます。幸い、私は仕事の関係上、他の日本企業の方にお会いする機会が多いので、そのような交流の中でいただいたご意見なども、さしつかえのない範囲で幹事としてできるだけ代弁していこうと考えております。

三・自分の特徴を生かす

最近ではハンガリー語を流暢に話す方が増えてきたように思いますが、商工会の場では私はハンガリー語を話す数少ない日本人の一人です。このような特徴を生かし、日本企業にとって有益になるのであれば、時間の許す範囲で商工会内部活動だけでなく外部との交流を図っていこうと

考えております。

ただし、この目標に関しては、その実行には余分な時間が必要になります。その意味で、前項に比べて実現することが難しい目標であると感じております。そこで、多少情けないのですが、取りあえずは年に一、二回外部と交流できればよしと考えております。

以上が商工会運営のための個人的な目標です。目標の低さに対してお叱りをいただくかも知れませんが、皆様に実情をお伝えし、期待値を適切なレベルにすることが実行すべき第一歩であると考えております。

いたらぬところも多々あるとは思いますが、皆様よりご鞭撻を賜り、トライ&エラーを繰り返しながら、責務の遂行に努力してまいる所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

日本人学校の設立について

二〇〇三年一月二一日

日本人学校設立準備委員会

(商工会提出資料)

決定事項

一・日本人学校開校に向けた大日程の合意

二〇〇五年四月 日本人学校開校
(授業開始)、二〇〇四年六～八月ヴ
イラニヨシユ小学校の別館を改築工
事、二〇〇四年九月より補習校をヴ
イラニヨシユ小学校へ移転。

二・寄付金の考え方の合意

実際には、寄付金を集める時が最終的な数字に寄付依頼額になる為、今回は考え方を合意したい。

以前当方から開示したベースは、調査不足であった。調査の結果、本来、寄付金は日本の本社が対応し、またその寄付が教育目的ということ

から損金参入できる状態で寄付をお願いすることが望ましいことから、各社に置かれましては、本社への説明とご理解を得て頂きたいをお願いします。

日本人学校設立の背景

一・補習校には、もう日本から派遣教員はない

文部科学省より、今回の加茂先生(二〇〇三年四月～二年間)の派遣に当たり、条件がついた。その条件は、加茂先生以降 準全日制の補習校には派遣教員は出さない。今回(二〇〇三～四)が最後の機会。日本人社会のコンセンサスを取って、日本人学校設立をやって欲しい。当面、赴任期間は二年だが、日本人学校の準備状況などを鑑みて、加茂先生の赴任期間が三年にすることもできる。

仮に派遣教員がなくなると当地での教育レベルが大幅に低下し、大問

題である。

二・補習校予算が今後増大することが予想され、授業料値上げ・商工会からの寄付増加がマストになってくるので、その根本対策が必要

現在の姿での補習校を存続させることは最早困難。従って、現在以上の教育の質確保を目的として、また将来に渡って日本人派遣者子弟が安心にハンガリーに來られる様にする為、日本人学校を設立する。

設立準備委員会のこれまでの活動状況

(ア)校舎の選定…種々検討した結果、ヴィラニヨシユ小学校を選定。

(イ)設立趣意書の提出…七月末に外務省及び文部科学省に提出完了。

(ウ)全日制日本人学校の開校時期添付の全体日程のとおり、



- 二〇〇四年四月…日本人学校の設立
（但し、必要に応じて）と再度
日本人学校の予算申請（一二月頃予算化）、教員の派遣依頼
- 二〇〇四年五月…日本の本社へ寄付依頼（六月）
- 二〇〇四年六月～八月…ヴィラニヨシユ小学校別館の改築
- 二〇〇四年九月～…現行日本人補習校の移転、補習授業の開始
- 二〇〇四年一二月…派遣教員の配員数決定
- 二〇〇五年三月…校長先生の派遣、教育プログラム策定へ
- 二〇〇五年四月…派遣教員の派遣
- 二〇〇五年四月下旬…日本人学校での授業開始

（エ）十二区の区長、教育長並びにヴィラニヨシユ小学校校長との交渉
これまでに（九月～十一月）、区長と一回、教育長と四回、校長と四回交渉を重ねた。

主な論点

別館と本館借料の考え方
当初、借料が公使の合意金額と議事録に食い違いがあり、別々に賃料を取られることで話が進むも、公使の取り計らいで全体年間二・二百万フォリントで進めていくことになった

教育時間の整合、特に体育の時間が折り合わなかった

日本の体育時間を一三時間配慮することでV小側と合意を取り付けた

別館の保険料…建物分は十二区の支払いで決着

別館のユーティリティ料の取扱い…別メータとすることで決着

V小学校との共同授業…低学年の

体育と日本語教育で可能性あり

（オ）校舎の改築費用及び備品の見積もり

別館改修費用+運動場改修費用…

五千百万円

備品、その他購入費用…千九百万円、

合計七千万円

詳細は別紙参照下さい。

（カ）予算案の作成

種々の前提条件が定まらない点があるものの、現時点での予算は添付のとおり

前提条件

日本人会（商工会）からの寄付は現状並みとし、その他は受益者負担の考え方で対応派遣教員数が定まらなく、これによって大きく運営コストは変わる為、取り敢えず一〇名の派遣教員+六名当地採用の専任教諭という前提

授業料

入学金：二〇万フォリント、
授業料：年間一二五万フォリントに
て黒字化

仮に派遣教員が二名減ると、現
地採用教員数が増え、日本人学校の
運営費が増加し、授業料は年間一六
〇万フォリントとなる見込み

(キ) 補習校の併設可否

当件は、基本的に日本人学校を設
立することへ、今後、日本人会から
のサポートは補習校でなく、日本人
学校となる。また現行の補習校で採
用している先生は日本人学校で専任
になる為、現状の様な準全日制の補
習校を継続することは困難となる。

補習校は、土曜日だけの先生のポ
ランテニア・ベースで対応すること
になる。若しくは、親が先生になる
形。

日本人学校は小学～中学校のため、
現行の高校生の補習校は存続させる

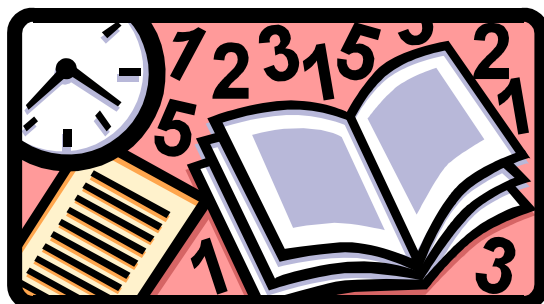
方向が望ましい。今でも週一回なの
で、サービス低下にはならない。

但し、当件保護者の意向等の確認
が充分でない為、今後 日本人学校
設立準備委員会が保護者（将来の保
護者も含めて）を集めて説明予定

一月三〇日（日）午後一時～

補習校・音楽室にて

目的… 日本人学校の動向と補習校
アンケート



日本人学校寄付について

1. 最近の日本人学校への寄付方法；

地域	寄付年月	使 途	算定基準<詳細 後述 3> ：算定基準として採用		
			本社資本金割	駐在員数割	通学子女割
ローマ	03年11月	移転先校舎の改修、構内・校庭の整備、教育用機材に充当			
プラハ	02年10月	学校施設の運営維持費用および近い将来必要となる校舎移転増設に充当			
上海	02年6月	校舎増設、施設拡充費用			
マニラ	99年11月	校舎移転新築費用			

(注) デンソーの場合、全件、社長決裁取得後、DNJP から海外子女教育財団の指定口座に支払

2. 算定基準

- ・上海方式；上記のとおり、本社資本金割と駐在員数割の2本で寄付金額を決定。

(単位：千円)

本社資本金割	1,000億円以上	2,700
	500億円以上 1,000億円未満	2,160
	200億円以上 500億円未満	1,620
	100億円以上 200億円未満	1,080
	50億円以上 100億円未満	540
	20億円以上 50億円未満	270
	20億円未満	108
駐在員数割	1名当たり	378

この方式で算出すると、本社資本金割が6割を占め、資本金額が多い企業に負担が集中

3. コメント

- ・ 進出企業数 / 規模 / 業態 / 人数 / 募集額等がバラツクため、結果として各校の算定基準はブレがある。
- ・ 受益者負担実現には、理屈上、必要経費に対して、通学子女数による案分割をすればよいものの、以下を総合すると、単純には採用できない；
- ・ (会社の規模に対して) 過負担となる企業もあること
- ・ (かつては通学子女がいたが) 寄付募集の時点でたまたま子女がいなかった企業もあること
- ・ 日本人学校の新設 / 充実は現地日本人会の総意で実現するという意見 (つまり、進出各社はある程度負担すべきという理屈) もあること
- ・ 資本金割は、子女がいない (＝ 単身) / 通学子女数が少ない場合、割高となる恐れがあり。
- ・ 駐在員数割でも、子女がいない (＝ 単身) 場合、割高となる恐れがあり。
- ・ 駐在員数割は、人数に応じて比例

させるやり方が一般的。

・ 資本金額 / 駐在員数は、募集時点での数量にて算定することが一般的。上記より、負担平準化のため、最近の日本からの寄付金を募る場合には、本社資本金割・駐在員数割が適切な方法として採用されている。

今回の寄付金の考え方：

資本金割；50%、駐在員割；50%として、寄付の必要な70百万円を各社配分・算出



収支推移予測 (11月度商工会提出資料)				
項目	収支推移予測			備考
	2005年度	2006年度	2007年度	
収入の部				
(生徒数予測)	55	67	70	
入学金	11,000,000	4,000,000	4,000,000	20万HUF×20人(2年目以降)
授業料	68,750,000	83,750,000	87,500,000	125万HUF/生徒
講師謝金	3,456,000	3,456,000	3,456,000	外務省(1,309US\$/月)
校舎借料援助*	1,100,000	1,100,000	1,133,000	外務省(55%援助)
商工会寄付金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	4万EUR(250HUF/EUR)
預金利息	120,000	120,000	120,000	
その他(寄付等)	0	0	0	
合計	94,426,000	102,426,000	106,209,000	
支出の部				
人件費	71,200,000	76,411,000	79,774,000	
図書・副教材費	2,200,000	2,680,000	2,800,000	4万HUF/生徒(50%実費負担)
行事費	2,200,000	2,680,000	2,800,000	4万HUF/生徒(50%実費負担)
旅費交通費*	1,250,000	1,300,000	1,339,000	
通信費*	1,380,000	1,435,000	1,478,000	
校舎賃借料*	2,000,000	2,000,000	2,060,000	暖房費は水道光熱費に含む
施設・備品費*	2,720,000	2,829,000	2,914,000	OA機器老朽更新等
水道光熱費*	3,440,000	3,578,000	3,685,000	水道、電気、ガス(暖房用)
銀行手数料*	400,000	416,000	428,000	
保険料	550,000	670,000	700,000	1万HUF/生徒(学校傷害保険)
専門職費用*	1,530,000	1,591,000	1,639,000	弁護士(VAT25%)、会計士
セキュリティ費	2,250,000	2,340,000	2,410,000	750HUF+VAT/時×2400時間(年)
消耗品・雑費*	1,320,000	1,373,000	1,414,000	
合計	92,440,000	99,303,000	103,441,000	
収支合計	1,986,000	3,123,000	2,768,000	
次期繰越金	11,986,000	15,109,000	17,877,000	

インフレ率	5.0%	4.0%	3.0%
-------	------	------	------

人件費...専任教諭6名と事務員・用務員の給与(社会保険料含む)及び非常勤講師手当を含む。
校舎賃借料...ヴィラニョシュ小学校別館及び本館・体育館(運動場)の使用料を含む。

*印の項目は、インフレ率にスライドした増加を見込む(但し、賃借料は当初2年間据え置き)。

2005年度(初年度)の次期繰越金には、補習校からの繰越金(1千万フォリントと想定)を含む。

日本人会と商工会の活動 についての提案

盛田 常夫

ハンガリーの在留邦人や進出企業の増加に伴い、日本人会や商工会の組織が大きくなり、活動内容が多様化している。これだけ多様化すれば、なるべく多くの人がヴォランティアとしてそれぞれの組織の活動に参加して、組織を支えていくのが望ましい。しかし、実態はこれとは逆の方向に向かっているように思われる。長期にハンガリーに滞在している在留邦人は日本人会の活動から離れ、商工会が実質的に管轄する「日本人会」の活動にお客さんとして参加している状態になっている。こうして状況は、それぞれの組織の従来の慣行や組織のあり方、組織の目的などを再検討し、活動を改善することを要請している。この提案はその再検

討のための私見であり、討議の材料として用意したものである。

提案一…現在、商工会が日本人会の役員を独占する形になっているが、これは比較的最近になって生じた現象である。しかし、長期に滞在する在留邦人が増えた今、このような慣行は時代の流れに反している。商工会の一元的な取仕切りを漸次解消し、相互の組織に異なる人材を充当し、新しい時代に適合した形態に移行すべきである。具体的には、日本人会と商工会はその活動においてそれぞれの自立性を高め、役員や執行機関のあり方も相互に自立性をもたせるのが望ましい。

理由…日本人会の中で商工会の在留邦人が過半を占めている事実からみれば、日本人会の活動が商工会によって担われていることは異常とは言えないが、これだけ大きな組織になってきた現状を考えると、相互に

自立的な組織として機能させるのが、本来の目的に適っている。企業単位の組織である商工会と、個人単位の組織である日本人会の特性を活かす必要がある。簡単に分けることができない場合もあるが、商工会は企業単位で考え、日本人会は個人単位で考えていくことが肝要である。

日本人会がやるべき仕事をすべて商工会が請け負う必要はなく、なるべく多くのヴォランティアが日本人会の活動の中心になるのが望ましい。他方、商工会には独自の機能や役割があり、本来の組織設立の目的に従った活動を軸にすべきである。

商工会が一元的に取り仕切るのではなく、商工会に属していない在留邦人の力や知恵を日本人会の活動で発揮してもらうことが必要である。とくに、長期にハンガリーに在留する邦人が増え、短期に滞在する商工会に属する各社の派遣社員とは、日常的な利害が異なる場合も多々見ら

れるが、一元的な取仕切りをおこなっている、利害の相反が見えなくなり、日本人会が商工会の利害だけを代表する組織になりがちである。

提案二…日本人会主催の行事は、基本的には受益者負担の原則を貫き、会費収入からの持ち出しを最小限にするか、あるいは発想を逆転して行事の参加者から参加料を得て、日本人会の財政に寄与するように、従来の慣行を転換すべきである。少なくとも、会費収入を各種行事の賞品購入に充てることは避けるべきである。会場費（借上げ費用）や賞品購入費は基本的に参加者が負担する方向に転換すべきではないだろうか。

理由…日本人会の財政と組織は、事実上、商工会からの寄付と人的貢献によって成り立っている。日本人会の会費収入が全支出に占める割合は5%に満たないばかりか、日本人会の行事のほとんどは商工会が決め

た役員と協力各社によって組織され、実行されている。

日本人会が相対的に自立するためには、独自の財源をもつ必要があり、各種行事から日常業務に必要なコスト回収するという視点に立つことが必要である。

提案三…日本人会（商工会）事務所（事務局）をもつと活用すべきである。在留邦人への施設利用開放やホームページ開設などは不可欠である。

理由…商工会からの寄付のかなりの部分が事務局維持費用なので、事務局の維持の形態について詰めた議論が必要である。現在の活動のレベルに比して今の事務所は贅沢すぎると言えるが、逆に今の事務所を維持するのであれば、事務所施設の活用（在留邦人への利用開放）や日本人会・商工会のホームページの開設など、施設や設備の有効利用が必要である。そうでなければ、必要最低限

の規模に事務局（施設）を縮小すべきである。

提案四…日本人会と商工会それぞれの内部組織構成を再検討することが必要だと考える。現在、商工会が日本人会の理事を担い、商工会各社にそれを補佐する役割分担を与えている。しかし、商工会が担っている活動のほとんどは、本来から言えば、日本人会が担うべきものであり、逆に商工会は本来の機能を遂行する内部構成を備えていない。たとえば、スポーツ理事（部会）は日本人会が担うものであって、商工会が担うべきものではない（人的な重複はあったとしても、組織として担うべきものではない）。他方、商工会には本来必要なはずの活動機能（たとえば税制問題や労働問題について情報を収集したり議論したりする機能）のようないものが存在しない。

理由…商工会には、スポーツ担当、

レジャー担当、「ドノウ通信」担当が存在し、その責任者が日本人会の担当理事になっている。本来、これは日本人会の活動として、日本人会の中にあるべきものである。商工会に必要なのは、このような邦人親睦会機能ではなく、企業間の情報交換、ハンガリーの租税制度にかんする情報収集、労働管理にかんする法規制の情報収集、ハンガリーの政治経済情報の収集、対外的な広報活動などである。商工会は租税部会、労働関連部会、政治経済情報部会、広報部などを備えるべきであって、ソフトボール大会の役割分担などを議論すべき場ではない。

同じことは運動会の運営についても言える。これまでスポーツ理事の指揮のもと、担当の商工会各社が中心になって、当日の仕事を担ってきた。しかし、日本人学校が設立された段階では、日本から派遣される学校教員の数が増え、当地で採

用される教員数と合わせれば、一五名を超える。今後、運動会の組織と運営は学校（教員）が中心になるはずであり、不足する部分は父兄が補充するのが趣旨に適っている。商工会が各社に役割分担を割り振る現在のやり方は止めるべきであるし、実際に必要なくなるはずである。

日本人会に必要な組織（レクリエーション部、スポーツ部、機関連誌部、広報部／事務局）の責任者は、商工会が企業単位で人選するのではなく、能力と適性に依拠して、個人のヴォランティアにお願ひする形をとっていく方向に転換すべきではないだろうか。

商工会が日本人会を取り仕切るというのではなく、可能な限り自立した組織として区別して考えるべきである。商工会の役員や組織機能の分担は会社単位になるとしても、日本人会の役員（ヴォランティア）は個人ベースで考えるべきである。少な

くとも、商工会が事前に決めた会社リストにしたがって人選していく方法は、今後の日本人会の発展にとって好ましいとは思われない。完全に区別することは難しいとしても、原則として会社と個人を区別することは大切な視点ではないだろうか。日本人会の活動は「商工会で決められたから」ではなく、個人のヴォランティアとしておこなう性格を持たせるべきである。

また、商工会の役割分担においても、一律に指名するのではなく、専門性にもとづく役割分担を優先し、余分な負担を増やさないように考慮すべきである。必ずしも、すべての会社が一樣に機能を分担する必要はない。長期的な公平さと専門性を勘案して、役員や組織機能の分担をおこなうべきであり、従来の順繰りリストに従う人選を再検討する必要がある。

提案五…日本人学校設立後は商工会の学校補助は止めるべきである。他方、補習校の存続の希望者が多数ある場合、希望父兄の自主的な運営を前提に、商工会は一定の限度を決めて補習校への補助を維持するのが望ましい。

理由…現在の形態の日本人補習校は商工会の補助なしでは成り立たない。したがって、これまで補習校維持のために商工会予算の四割前後が補助されてきた。いわば、商工会の存立意義のかんりの部分が補習校維持にあつたと言つても過言ではない。しかし、このような状態が、学校にとつても商工会にとつても、望ましくかつ正常だと思われない。

二 五年春から日本人学校が開校されれば、日本から一名規模の教員と校長が派遣され、教育課程そのものは完全に自立した形で行われることになる。商工会加盟各社は日本人学校設立にあたって学校設立の

資金を提供することになるが、以後は学校運営にたいして直接的な形での関与はなくなり、日本人学校は自立した私立学校として運営されていくと考えられるが、以下のような問題が未解決のままになっていると考える。

A. 日本人学校の設立ならびに財政運営において、日本人会や商工会はどのような関与をおこなうことになるのか。ふつう、私立学校の法人組織として理事会のようなものが設置され、それが経営責任をもつことになるが、日本人学校の場合にはどのようなになるのか。誰が経営責任をもつ理事会を構成していくのか、日本人会や商工会が組織として理事会に参画することになるのか、それとも設立委員のような形で個人が理事会を構成していくのか。

これまでのところ、日本人学校設立後の経営責任の所在が必ずしも明確になっていない。日本人会や商工

会は日本人学校の財政運営に形式的あるいは実質的な責任をもつのか否か。形式的にも実質的にも責任をもたない(ケース一)、形式的な責任をもつが実質的な責任をもたない(ケース二)、形式的な責任をもたないが実質的な責任をもつ(ケース三)の三通りが考えられるが、建前としてケース一、本音としてケース三というのが、準備委員会の暗黙の了解のように思える。

B. 準備委員会の試算では商工会がこれまで同様に、日本人学校にたいしても寄付行為を続けることが前提されている。年間一千万円の補助金は商工会予算の四割程度の支出である。私個人はこのような規模での補助の継続には反対である。つまり、商工会が日本人学校の経営責任を実質的に負う形は好ましくない。商工会各社は日本人学校への就学児童を抱えるか否とに関わらず、設立のために当初資金を寄付する。そこ

までは良いとしても、商工会が法的（形式的）に学校経営に責任をもちたいとすれば、設立以後も継続的に日本人学校の経常的経費を賄うことは商工会組織の設立目的に反する。なぜなら、商工会がその予算の四割も恒常的に援助することになれば、商工会は今後も日本人学校の経営のために存在する組織であり続ける。しかし、商工会加盟各社そのよう目的のために商工会に加わり、会費を払っているのだろうか。

日本人会や商工会が組織として日本人学校の経営責任をもつものではない限り、商工会は日本人学校の経常的経費を賄うような補助を廃止すべきである。商工会はその予算を本来の活動に使うべきであり、もし日本人学校が経常的に一千万円の財源が不足するとすれば、それは別途に受益者から徴収するか、関係する企業各社が別の費目でファイナンスすべきものである。このような経営責

任を担えるのは、やはり日本人学校に児童を通わせる企業の他にあり得ない。主要な企業から理事を派遣し、日本人学校の経営責任を担うのが、最善の途であると考える。

商工会は日本人学校の経常経費を賄うのは好ましくないが、適当な額の補助を日本人学校ではなく、校舎を借用するヴィラニョシユ小学校の日本語授業の教材準備補助として支給することが考えられる（たとえば、年間百万円）。これはハンガリーにおける日本語学習者を助成し、日本人学校への友好的な協力をお願いするという点で意義があり、年度ごとに商工会の寄付行為の一部として、その支出の是非を決めていくことも一つの案である。

C. 補習校を別の形態で存続する場合には、それを希望する父兄が中心となって、補習校の運営委員会を構成し、運営に責任をもつべきである。補習校維持のためには財政的な

補助が必要になってくると思われるが、商工会が補助する場合でも、日本人学校が設立された段階では、現在のような準全日制の維持を前提とした補助額には合理性がない。したがって、父兄の財政負担と意欲に依りて、日本人学校の校舎を借りながら、補習校を維持することになるので、他の補習校と同様に、週一回程度の授業をおこなうものに縮小せざるをえない。商工会が補習校に寄付をおこなう場合でも、商工会予算の1/2割前後の補助にならざるをえない（年間二〜三百万円）。この程度であれば、商工会設立の目的にも適っている。なぜなら、補習校への需要は当地に長期に滞在する日系家庭を中心にあると予想される。これらの子弟は、将来において、ハンガリー社会の中で、日本とハンガリーとの間の友好関係を担い、日系企業を支えるバイリンガルの子女となる可能性をもっており、商工会がこの

ような子弟の教育に一定の補助をおこなうことは、商工会の存立目的にも適うものである。

提案六…日本人会総会は、これらのような諸問題を議論し、日頃不足している交流を温める場にすべきであり、福引き大会に終わってはならない。総会が在留邦人の交流を深める場にするように、総会のあり方（プログラム）を検討する必要がある。

理由…これまで、日本人会総会はその名とは裏腹に、短い活動報告と理事の形式的な改選に終わり、実体は余興と福引き大会になっている。もう少し、総会のあり方を考え、その中身を検討する必要があるか。日本人社会で議論すべき問題がないわけではない。補習校存続や番組「ミツコ」にたいする対応について、今後のことを考えて、議論すべきことは多々あると思う。少なくとも、総会でそのような事柄について、意見

の交換がおこなわれて不都合な訳はない。

次に、幼児同伴の是非である。二三年度の総会の福引き大会は、これまでになく雑然としており、幼児や小学生の低学年生が走り回り、落ちついてディナーを味わうことができなかった。五つ星のホテルの夕食会を兼ねた集まりが、このような状況になっていくことに問題はないか。大人中心の社会である欧米でこのような光景が見られることは希である。

ヨーロッパでは、ディナーや音楽会に幼児を連れて行くことはない（特殊な能力をもっている児童や大人の規範で行動できる児童は例外だが）。子供の行事と大人の行事は明瞭に区別されている。それが同胞の集まりであってもそうだ。欧州の文化の中で許容される行動規範を守ることが必要ではないか。そのような習慣や文化を知ること、大人や子供

の勉強ではないか。

総会の出席について、ある年齢以上（たとえば中学生以上）の児童に限定することはできないか。少なくとも、日本人会の構成員は満一八歳以上の日本人と規定されている。

日本人社会に子供の行事が不足している訳ではない。子供には子供の集まりや行事がある。ゲーム大会、遠足、運動会、文化祭などがある。逆に、大人だけの行事がない。すべての行事を一緒にすべきではない。大人だけの行事があっても良いはずだし、それが総会であって良い。とくに、数年前まで頻繁に行われていた商工会の歓送迎会がなくなっている場合は、商工会会員同士でも話し合える場がなくなってしまった。総会は年に一度の大人の集まりとして、プログラムを再構成する必要があると考える。歓送迎会には常に五、六名規模の参加者があり、もちろん大人だけの集まりであった。

提案六・福引きのあり方について、これまでの慣行を改め、総会の意義を再確認すべきである

理由・従来から、福引き大会にかんする意見が提出されているにもかかわらず、そのあり方について十分な検討が行われていない。問題は次の点にある。

A・時間が長すぎて、総会が「福引き大会」に墮している。

B・これまでの十年以上の経験から明らかになっていることは、

* 大量にくじを購入した人が有利（くじの数が賞品数にたいして相対的に少なく、大量に購入すると当たる確率が高くなる）。

* 毎年、多数の賞品をとる人が何組かでのにたいして、三分の一の人には空くじになる。手ぶらで帰る人がこれだけ多いのに、二時間近くもこのような行事に時間を使う意味があるだろうか。

* 企業が提供している賞品を、小さな幼児に取りに行かせることについて、これまで総会ごとに批判が出ていた。しかし、毎年担当者が変わることもあって、この問題はきちんと議論されていない。「子供が楽しみにしている」という人もいるが、それは趣旨に合わないし、提供会社にたいしても礼を失する。

* 世界第二位の経済大国の日本人が、くじに一喜一憂して、一時間も二時間も時間をかける必要はない。

福引きへの提案

福引き大会にかんしては、次のような私案を提案した。

* 希望者には五千円の福袋を提供する。福袋には、企業から提供されたものを平均で一万円程度の額を目処に詰める。福袋は日本人会員（一八歳以上の日本人）一名につき、一個とする。

* 福袋を買った会員は高額賞品の抽選券を一枚もらう。これは有料で

も無料でも可だが、福袋を買うという行為を前提とする。

* たとえば、単価三万円を超えて賞品は福袋に入れず、くじ抽選とする。

* 抽選賞品の受け取りにあたっては、受賞者本人が出向き、氏名を名乗り、会場の皆さんと提供会社に挨拶する程度のことにはあつて良い。

以上のようにすれば、実際の抽選対象商品は二点程度になり、抽選時間は三分以内となる。

余った時間をもっと有効なプログラムに当てるべきである。音楽留学生の皆さんの紹介を兼ねて、演奏会を開いてもらうのも一つの案で、この方が余程気が利いている。また、総会とパーティ（小コンサート、福引き）は会場を別にして、総会は椅子席だけを設けた会場で、パーティは別会場で立食形式にして、会員同士が自由に話し合えるようにすることも一つの案である。

随想

ハンガリー・フェンシング生活

二〇〇四年、これからが本番

山本 憲一

六年前まで私はハンガリーという国を全くと言ってよいほど知りませんでした。恥ずかしい話ですが、ヨーロッパの何処に位置しているかさえもハッキリしていなかったと思います。

それまで、私は陸上自衛隊朝霞駐屯地（埼玉県）自衛隊体育学校に所属し、勤務していましたが、そこで出会ったフェンシングが私の人生を思わぬ方向へと導いていきます。

高校を卒業し、そのまま自衛隊に入隊。フェンシングをはじめたのは、二年ほど経った頃でした。幼少より水泳一筋でやってきた私の勝負の相手は常にコンマ何秒を争う「タイム」。

そんな私にとって、対戦相手を目の前にしてプレイするフェンシングは、白黒ハッキリをさせる「勝負の世界」。とても新鮮で熱いものを感じさせられました。

そんな私に思わぬ転機が訪れました。フェンシングを始めて半年経った頃、異国の地からフェンシングコーチがやって来たのです。「ハンガリーからやって来た」というこのコーチが教えるフェンシングはとても熱心で、本来は世界で活躍する選手を中心とした指導が目的の日本訪問でありながら、フェンシングを始めばかりの私にも丁寧に、しかも仕事以外の時間を使って指導してくれた事は、今でも忘れられません。彼が帰国してからも、彼の熱心な指導に心を打たれた私は、もつとこの人の元でフェンシングを学びたいと思いました。

それから二年後、自衛隊任期満了を経て、私はハンガリー人コーチを

頼りハンガリーへ渡ったのです。二〇〇〇年、シドニーオリンピックが開催され、ハンガリー・フェンシングが世界の頂点に立ちました。まさかそこまで高いレベルを持っている国だとは知らず、ただひたすら驚くばかりでした。

さらに世界の頂点に立った選手は同じクラブチームに所属していることを知り、自分も必ず世界で活躍してみせると、胸に誓ったのです。その後、フェンシングの勉強と共に、ハンガリー語を独学で学び、自分がハンガリーでフェンシングをする為の土台を築きました。そして、フェンシングの楽しさをハンガリーに滞在する日本の方々に伝えようと、日本人フェンシングチームを結成。少人数ではありましたが「ハンガリー日本騎士団」がスタートしたのです。このハンガリー日本騎士団を結成した事で、私はまた一つ成長する事ができました。このころから、私に

フェンシング ハンガリー生活も転機を迎えてきたようです。結成当時の目標であった「子供達のハンガリーでの試合出場」もなんとか達成し、私自身も、積極的に日本の選手としてワールドカップに参戦。さらに日本に帰国した際、NHKの「地球ラジオ」に出演し、フェンシングとハンガリー生活について話をさせて頂き、それがきっかけになり、私のハンガリーでのフェンシング修行が日本に少しずつひろまっていきました。ハンガリー日本騎士団は二〇〇二年には日本車椅子フェンシング代表団が試合の為にハンガリーを訪問の支援、二〇〇三年には関西大学選抜ハンガリー合宿の開催、その他にも多くの日本を代表するフェンシング選手がハンガリーで練習ができる環境を整える事も実現しました。

ハンガリーに関わりの深い日本人の方々の協力、そしてなにより、海外で苦楽を共にするハンガリー日本騎士団の仲間の団結があつてこそ、乗り越えることができたのです。現在も、ハンガリー日本騎士団は毎週二回の練習を続けており、少しずつではありますが選手達も成長を見せてきています。騎士団コーチである私も、フェンシング世界ランキングに YAMAMOTO JPN の文字を登場させることができ、さらにハンガリー日本騎士団は二〇〇三年一月一四日に日本ハンガリー友好協会鹿児島県支部の主催でハンガリー・フェンシングコーチを交えての「日本ハンガリー・フェンシング親睦会」の成功に貢献する事もできました。この会には駐日ハンガリー大使でいらつしやるダブローナキ大使も鹿児島を訪れ、ハンガリーと日本がスポーツでも交流ができる事は素晴らしいことです、と喜んで下さいませ。

した。ハンガリーの位置すら正確ではなかった私がハンガリーに関する事で、様々な経験を積み、多くの素晴らしき出会いの中で成長する事ができました。また、ハンガリー日本騎士団も少しずつではありますが発展の道を歩んでおります。二〇〇四年も私はハンガリー日本騎士団の仲間と共に、様々な活動に挑戦していきます。そして、いつかはフェンシング王国ハンガリーの名が日本に轟き、騎士団から未来のフェンシング日本代表選手を育成する事を夢に、努力を惜しまず頑張っていきたいと思っております。これからが本番です！！私達「ハンガリー日本騎士団」は全力で活動していきます。最後にになりましたが、ドナウ通信の読者の皆様、新年あけましておめでとございます。まだまだ小さな私達ではありますが、今年もどうぞよろしくお願い致します。

ああゴルフ人生 其の二

石嶋 弘

ゴルフと聞くと贅沢なスポーツというイメージが湧くかもしれないが、必ずしもそうではない。小生一六歳でゴルフ場に弟子入りし、二三歳で挫折するまでの七年間、寝ても起きてもゴルフのみの人生を送った。ここでは大学のゴルフ部とは異なり、丁稚奉公のような生活であった。今から丁度一年前のドナウ通信で、特に忘れられない体験を振り返ったが、今回はその第二弾である。

全英オープン七位のレベル

ゴルフをしない人は知らないかもしれないが、全英オープンとは数あるゴルフトーナメントのなかで最も由緒があり、世界四大大会のひとつである。「オープン」という意味は、参加者が登録されているプロである必要はなく、誰でも参加できるとい

うことである。もちろんだからといって猫も杓子も参加できるわけではなく、厳しい条件をクリアしなければならぬ。

実は、この大会に小生が参加し、と言いたいところなのだが、残念ながら小生はシングルの人にも負けしてしまうような腕だった（今もそうだが）のでこの大会は夢のような存在であった。しかし、小生が奉公していたゴルフ場に、この全英オープンに七位になったプロがいるのだ（日本人では史上最高順位）。この人こそ、友利勝良プロである。

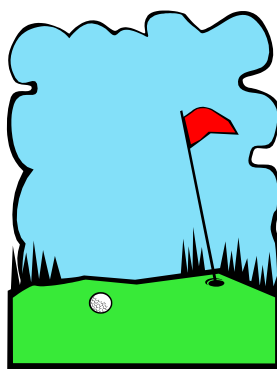
友利プロは沖縄出身で、彫りの深い顔をしている。当時は沖縄には米軍がいるからアメリカ人の血が入っているのかな、などと思っていた。彼は二一歳でゴルフを始めたそうである（かなり遅い）、プロに合格したのは一九八三年、当時二九歳。実は彼が所属していた福岡県の麻生飯塚ゴルフクラブに小生が弟子入りしたのも

この年であった。

友利プロの特徴は、派手ではないが安定しているゴルフをすることである。飛距離は必ずしもすぐはないのだが（小生でもはりあえる）、球筋が低く、ただひたすらまっすぐ飛んでいく。プロは普段土の上に球を置いて打つ。もちろんティー（球を乗せて高い位置に固定するもの）などは使わない。一球打つ度に少しずつ土が削られていくのだが、普通プロは次の球を打つ時に少しずつ後ろ（球が飛んでいくのと逆方向）にずらしながら置いていく。このずらしていく間隔が小さければ小さいほど正確であることを意味するのだが、友利プロの場合はおそらく一センチほどであったように思える。とにかくあまりの正確さに驚き、見ていて気持ち良かった。因みに小生が練習するとたまにダブる（球の手前の地面を打ってしまう）ので、練習する場所を常に広く確保しておかなければ

ればならなかった。

プロがコースを回るときは研修生がキャディ（ゴルフバッグを担ぐ役割）をするのだが、小生もたまに友利プロのキャディをした。プロは当然ホームコースを知り尽くしているのだが、ある日やはりプロというのはすごいと思わされる経験をした。第一ホールいきなりバーディーを取り（規定より少ない打数で球をホールに入れること）、その後次から次とバーディーの雨あられ。結局ハーフ（九ホール）を終わってみるとスコアはなんと二八。ゴルフをやらない人はこの数字がどれほどすごいものかわからないだろうが、規定の打数はハーフ三六なので、九ホール中八ホールでバーディーという計算になる。ポーリングに例えれば、一回だけ取り逃した以外はすべてストライクという感じであろうか（多分これより難しいように思える）。もし事実を客観的に認識できていれば、小生



はこの時点でゴルフをきっぱりやめていたであろう（もちろん後悔はしていないが）。

セクハラプレーヤー

ゴルフ場のキャディの年齢層は広いのだが、たまに若くて可愛い人もいる。たまたまそういうキャディが

ついた時の男性サラリーマンプレーヤーの喜びぶりはすごい。小生も若かったのだが、女性ではなかったので必ずしも可愛いキャディさんほどは人気がなかった。

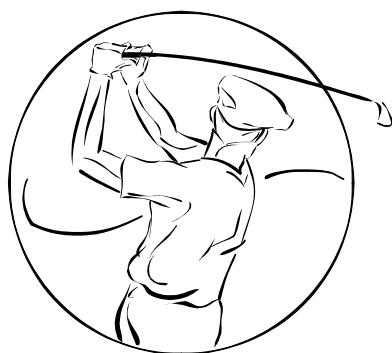
しかし、研修生には他のキャディにできないことがある。それは正確なアドバイスである。ピンまでの距離を正確に判断するのはもとより、風の影響、芝の状況、そしてお客さんの癖などを考慮に入れながら使用するクラブの番手を選ぶ。若い女性キャディでなく残念がついていたお客さんも、コースを回り終わるまでには満足してくる。終わった後にお客さんにキャディのサービスに関するアンケートをお願いするのだが、小生の自慢は他のどのキャディよりも得点が高かったことだ（ゴルフなどやめてキャディにでもなるべきだったか）。

ある天気の良い日にキャディをしていた時、五〇歳ぐらいで太ってい

る男性プレーヤーがいた。彼は小生のアドバイスを熱心に聞き、サーブに満足しているようだった。あるショートホール（ピンまでの距離が短いホール）のティーグラウンド（第一打目を打つところ）で前の組がプレーを終えるのを待っていた時、また小生のアドバイスを聞きにきたので説明しようとした。ところがいきなり小生の尻に何かがまとわりついてきた。気付いてみるとその男性が私の尻をわしづかみにしていた（多少大げさな表現に聞こえるかもしれないが本当にそう感じたのだ）。さらに、「君はいい尻をしているね」の優しい（？）一言。この時に感じた恐怖は言葉では表現できない。女性は常にこのような恐怖を感じているのだろうか？ 何度も触れられれば慣れそうな気もするが、とにかくその時はあまりの驚きに何も言えなくなってしまう。また触れられたらどうしようかと思いつながら残りのホール

をこの男性と共にした。結局その後は一九番ホール（ゴルフの後に酒を飲みに行くこと、たまにエッチなことも意味する）に誘われることもなく無事に終わったのだが、とにかく変なことに目覚めなくて良かった。

こんな感じで毎日が過ぎていったのだが、今振り返って見ると、なんとかけがえのない経験ができたものと幸せに感じている（もちろん尻は触られなくとも良かったのだが）。しかし、あのようにゴルフのみの人生を送っていたのに対して、去年ゴルフをしたのは三回だけ。ところが今年には日本人有志ゴルフの啓蒙係（多くの日本人に参加を促すいわゆる営業マン）を担うことになっていたのでもっとゴルフをしようと思っている。とは言いつつも、実は暑い日、寒い日、雨の日、風の日、雪の日、日にゴルフはしたくない…。ああゴルフ人生、かな。



ゴルフとYシャツとワタシ

奥野 竜司

月曜日の朝、ワイシャツに袖を通すのは、何年経っても憂鬱なんです。週末が早く来るのだけを楽しみに毎日出勤しております。その週末の楽しみといえばゴルフ。

九九年夏、ハンガリーでのゴルフデビュー第一打はきれいなドロップボール。距離も出て、まさにナイスショットだったのですが、それ以来、周囲からの「ナイスショット」という声はなくなり、かわりに「あれ？何処行った？ファー！！」というのが連発されるようになりました。それにもかかわらず、週末の予定が無ければゴルフに行くといった、日本のサラリーマンが聞けば非常に羨ましいであろうゴルフ生活を送っていたのですが、実際はどうだったのでしょうか？

特に夏は暑い為、涼しいうちにと

早朝から始めるのが普通ですが、当時は、「もう一回やる？」と一人が言い出すと、「じゃあ、やりましよう！」という具合に暑い中をラウンドしておりました。早朝から始めるのは、暑さを避ける為ではなく、一日二ラウンドする為なのだと思います。知らされました。

夏が過ぎると寒さ対策を万全にし、雪が積もっていない限りゴルフ場へ出かけ、霜が降りている時はクラブハウスでトランプをしながら解けるのを待ったものです。そこまでしてやらなくても…とお思いの方もいらっしゃるでしょうか…。

本当の意味でのデビューは九八年の秋。もともとゴルフには興味はなく、半ば無理やり上司に連れていかれたのがきっかけでした。ゴルフというよりハイキング、もしくは日帰り温泉旅行気分で行ったのです。

早朝、江戸川区にあった独身寮まで上司が迎えに来てくれ、道中「ゴルフ

とはなんぞや」の講義を聞かされました。ゴルフ場に着いた頃のしゃべり過ぎて乾ききっていた上司の唇が思いだされます。

千葉県にある某Mリなが製菓系のゴルフ場、エンジェCC(まさにそのままやん!)でたまたま当日行っていたオープンコンペで入賞し、チョコレート一年分、クッキーとココアを半年分、その他キャラクターグッズを頂く事になったのです。

小生と一打差でこの賞を逃した年配の女性は、まさに一パッカー〇円の玉子の特売日に自分の一つ前で売り切れになったうちのおかんの如く、「悔しいー！」とハンカチを噛みしめておられました。さらに、その女性のお連れの方は小生と三打差で入賞。賞品自体はたいしたことなかったのですが、その方の悔しさは頂点に達していたのでしょうか、フロントへ向かい「参加賞頂戴！」と涙目になって訴えておられました。その後どうなった

のかは定かではございません。

こんなデビュー後も特に興味が湧かず、打ちっぱなしに数回出かけたくらいでしたが、こちらに赴任してまもなく、「ゴルフ以外に余暇を過ごす方法は無い」と言われ（今考えると馬鹿な話なんです）それを実行しておりました。

テレビで見ているゴルフとは違い、打ったら走る、探す、また打って走る、探すを数回繰り返し、グリーンにたどり着いた頃には息が切れており、優雅さのかけらもない状態が一年は続いたように記憶しています。

おかげで現在も体型は変わらず、入社時に採寸したスーツのサイズをキープしております。厳しさの中にも勿論楽しみはあり、他のプレイヤーより飛距離がでたり、ロングパターを見事に決めることができたりすると、何とも言えない快感を味わえるものです。また、アフターゴルフの食事や飲み会でのひとときは、日頃のプレッシャー

やストレス（小生の場合特にゴルフ）から開放してくれます。

今年からゴルフを始めようという方にアドバイスを。

● **まずは形から！**

ゴルフは道具です。（これ持論）クラブはもちろん、ボールや傘もブランドものにしましょう。またファッションについても気を配りましょう。片山晋呉プロを真似てテンガロンハットをかぶってのラウンドを試みましたが、打ちづらく一打で断念してしまいました。自分にあつたお洒落をしましょう。

● **習うより慣れる！**

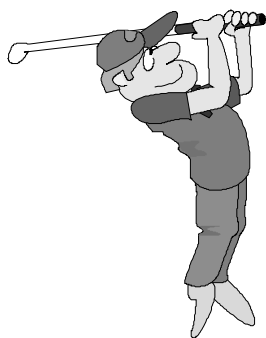
これはうそです、ゴルフ場にはレッスンプロがいますので教えてもらいましょう。身近に先生はたくさんいますが、それぞれ意見や教え方に差がありますので。

● **ルールを覚える前に、マナーを知れ！**

ゴルフのルールは至って簡単です。

ボールを打って穴に入れるだけです。オフサイドやハンドなんてものはありません。マナーを守ってプレーするだけです。

本年も皆様にとって良い年になる事を祈念しつつ、自身のベストスコア更新を信じてゴルフ場に足を運びたいと思います。皆様とゴルフ場でお会いできるのを楽しみにしております。



ハンガリーでの運転

大古 慶太

ハンガリーに来てから、もうすぐ一年が経ちますが、車の事故の多さには驚きます。ぶつかつた程度の事故から、警察・救急車が来る様な衝突事故まで、車の事故は週に一回は見ている様な気がします。この夏には、衝突事故で人が車の中で即死している場面に遭遇してしまつた事まであります。

常日頃、ハンガリー人の運転は荒いと感じていて、事故を起こすのも当然と思つており、私自身もそんな事故には巻き込まれたくないと思つていました。これは決して、私だけでは無く、読者の皆様もそう感じる事は少なくないと思います。

しかし、私も一年間近く、ハンガリーで運転をしてきて、日本で運転していた時よりも、自分の運転が荒くなつていたり、スピードを出し過

ぎていたりしていると、周りから言われ、気をつけなければならぬと思つていた矢先に、衝突事故を起こしてしまいました。

Esztergom から *Budaepst* に向けて車を運転している途中に、カーブで車のスピードを出し過ぎながら、センターラインを超えて曲がつてしまい、更に太陽の日差しで前が見づらくなつていて、対向車線に気付かなかつた事で、対向車と正面から衝突してしまいました（周りからは、道端に立つていた娼婦に気を取られたのが原因と言われておりますが、そんな事は決してありません）。
完全な正面衝突ではありませんでしたが、お互いの車の右前部分は大破に近い状態になりました。幸いにも、相手方・私共に重傷までの怪我には至らず、最悪の事態は免れましたが、前部分は大破し、エアバッグまで飛び出た事で、大体の事故の大きさは想像して頂けると思います。

今回の事故で、今までの自分の運転を大いに反省し、安全運転を常に心掛けなければならぬと改めて思い知らされました（常識的な事です）。

一方で、この事故を受けて、私の同僚のM氏が、ハンガリーにおける運転の注意及び交通事情を纏めて下さつたので、長年、ハンガリーで運転している方は復習及び再確認の為に、まだ日の浅い方は、今後の参考にして頂ければと思います。

一般的な運転時の注意

- ・ 交通信号の無い交差点では、右方車優先（黄色いひし形の優先標識が無い場合）。

- ・ ラウンド・アバウト（ロータリー）では、左方車優先。ラウンド・アバウト内の車が優先。但し、前に居る車にも注意。

- ・ 高速道路及び郊外ではランプ点灯義務（全ての場所において、二四

時間点灯義務かもしれません)。

・大通りでは、基本的に左折が出来ないが多いので、事前に右折して、小路を経由して、曲がりたい方の大通りに出て左折。若しくは、許可されている場所にてUターン。

例…4・6番のトラム環状線からフェリヘジ空港に行く通りに出る場合には、環状線と空港へ行く通りの手前で右折し、小路を経由して、空港へ行く通りに出てから左折(標識あり)

参考…4・6のトラム環状線のペスト側で左折レーンがあるのは、西駅の前のみ。

・踏切信号で、白ランプ一つ点灯は通行可、黄色が二つ点灯(?)は通行不可。

・交通信号のある交差点内踏切では、トラムは気にしなくて良い。

但し、踏切信号のある場所(例…Attila utからChristina utへの合流付近)は、その踏切信号に従う。

交通信号・踏み切り・踏切信号が

共に無い場所(例…モスクワ広場内)では、要徐行 & 左右確認。

・M0のレーン幅は、東京の首都高速並みに狭いので、スピードは出し過ぎ無いように。

その他(注意・情報など)

・路駐する際に、座席の上など、外から見える車内には荷物(特に貴重品)は置かない。

・車盗難後の売却防止の為、グリーンカードは車内に残さない。

・取締まり時に、会社の社有車の場合、社有車貸与の証明書を求められる事があるので、運転時は常に携帯する。

【乍】の字が横になった様な青標識のある場所は24H駐車可。

・六月中旬から約一ヶ月間は、取締り強化期間の為、ねずみ取り・取締り設置場所が増える。

・飲酒チェックポイント…

Belgrad rakpart と自由橋の交差点(中央市場付近)

これ以外にも皆様も情報をお持ちだと思いますが、又ドナウ通信を通じてでも教えて頂ければと思います。今の時期は道路が凍ったり、霜がおりていたり、霧で道路が見え難い事もあります。

皆様も、安全運転を心掛けて、事故には十分注意して下さい。



私が見たハンガリー建築の魅力

水野 貴博

建築史という分野を志し、研究のためブダペストに住むようになってから三回目の新年を迎えた。旅行者として初めてハンガリーを訪れてからは、九年になる。その間、この国を見る私の目も変わったし、この国自体も変化し続けているように見える。

建築学科の学生だった頃、初めてのヨーロッパ旅行先として選んだうちの一国が、ハンガリーだった。イタリヤ・フランスなど、他にもつと有名な建物があつて勉強になりそうな場所があつたのだが、そのときはそれよりも、子供の頃に鉄のカーテンの後ろにあるものとして漠然と感じていて、突然門戸が開いた東側という世界を見てみたい気がしたのだ。その後自分のテーマとしてこの国を選び、第二の故郷になるとは当時は

全く考えていなかった。

モスクワでの数日の滞在の後到着したブダペストでは、不思議な開放感を感じた。モスクワでは七月の半ばだというのにしとしとと冷たい雨が降り、寒さと少々の緊張で震えながら、徒歩で動くにはスケールの大きすぎる街を黙々と観光していた。ブダペストでは、さんと陽光が降り注いだかと思うと、激しい夕立があつた。電車の中で二人の世界に入っているカッブル、手をつないで微笑みながら散歩する老夫婦、感情表現が豊かだとも思った。実際住むようになってみると、あのとときの

人々の笑顔はどこへ？と思うこともしばしばなのだが。

この旅行当時はまだ建築史についてほとんど知識がなかったが、ブダペストに到着した瞬間から、明るさと陰鬱さが交錯したようなこの街の持つさまざまな表情に魅了された。特に七番のバスでペストからブダに

渡るとき、灰色にすすけた重厚な建物が並ぶコシュート通りを抜け、白亜のエルジェーベト橋が姿を現し、滔々と流れるドナウ川と王宮のパノラマが開けた後、険しい丘の麓にゲツレールトの像が正面に見える、こんなダイナミックな視点の展開に心躍らされた。

この初めての旅行で、ブダペストの街並みは私の原風景としてしっかりと根付いたようだ。その後ヨーロッパの各地を訪れることができたが、丘が連なる川沿いの展望、林立する教会の塔、黒くくすんだ屋敷が並ぶ狭い通り、こういった風景には今でも自然に感動を覚える。

さて、専門家の入り口に立った今の目で見ると、ハンガリーの建物や街並みももう少し冷静に評価しなければならぬ。「ハンガリーってどんな建築があるの？ヨーロッパだからさすがにいろいろと古い建物があるのでしょうね」といった質問をよ

く受ける。この質問に対しては、そ

れなりに答えを用意しているつもりだが、それでもいつも少し考え込んでしまう。古い建物を蓄積して現在の街並みをつくっている点で、さすがにヨーロッパの一員だとは感じるが、実際のところ、ハンガリーはヨーロッパの中でも古い建築が格別豊かにある国ではない。西洋建築史の解説書でハンガリーに関する記述は全くないか、あってもごくわずかだ。他国から直輸入しただけの建築が多く、この国だけをとりあげて建築の流れを語ることもできない。単純比較はできないが、文化財の質や量で見ると、日本のほうが上のように見える。

それでは、ハンガリーの建築の魅力は何なのか？これに対して、私の答えは、質問者の興味がブダペストなのか、ハンガリーという国なのか、もう少し広く、ハンガリーを含めた中東欧全体なのかによってそれぞれ

違う。

ブダペストの魅力を一言で答えれば、B級建築の宝庫といったところだろうか。ブダペストは、日本で言えば明治時代の終わり頃、十九世紀末から二十世紀初頭に急速に発展して出来た街だ。この頃に流行だった建築は、古今東西のデザインを模倣して自由にアレンジして組み合わせたもので、街のどの建物を見てもそれぞれにユニークな点があつて面白い。ブダペストにはこの時代の建物が非常に多いだけでなく、他の街ではあり得ないような奇抜なものがある。ここに知られる。この頃には、宮殿を建てられる大貴族ほどではないにしても、街中に豪華な建物を発注できる程度のお金を持った商工業者が次々に登場してきた。その一方、まだ手仕事の発想が残っていて、画一的な大量生産が一般化してはいない。このタイミングだったからこそ、このような華やかな街並みが誕生し

たといえる。

それぞれの建物を単体としてみると、全体のバランスが美しいとか、世界の建築の流れに一石を投じるような革新性があるとかは感じられない。どこかに手本があつて、それをもとにしたパロディのような建築ばかりだ。

しかし、この街の建物には、読み解く面白さがある。一見ごくごくとしておられるとしか思えない建物の装飾にも、それぞれに意味がある。建築についての知識が増えるにつれ、「ああ、これは　の模倣だな」と気づくものも多くなってきた。そしてときには、なぜそのモチーフをその建物に用いたのか、背景にある事情を察することが出来る。

が、残念ながらブダペストの建物を完全に理解するには、建築以外にも文学・美術などの幅広い見識が必要だ。浅学な私ではとても太刀打ちできない。この街全体が、あらゆる

知識を導入しても完全には読み解くことのできない膨大な古文書のようなものである。それでも、取り組めば取り組むほど多くの答えが返ってきて、今まで何も語らなかつた建物は何を主張していたかが見えてくる。これがブダペストの最大の魅力だと考えている。

次に、ハンガリーという国に注目してみた場合、素朴な地方都市の広がり方が魅力と答えるだろう。

ハンガリーには、旧市街と新市街の境界が曖昧で、街の中心にそれほど建物が建て込まないうちに外側にだらだらと発展したような都市が多い。城壁に囲まれた中に凝縮した街が形成されるのが普通なヨーロッパでは、これは少し珍しい。特にデブレツェンやケチケメートなどアルプスエルの都市では、まるで新世界に開拓したような雄大なスケール感と、ゆとりのある空間が展開している。農村の延長のようなゆつたり感と一

種の泥臭さが都市にも見られるのは、とてもハンガリーらしく思える。

それぞれの都市の歴史を振り返ってみると、平原の広がるこの地では城壁を築く石材の入手が困難で、もともと城壁のなかつた都市も多かつたこと、モンゴルやトルコの攻撃によつて都市の衰退と勃興が繰り返されたことも関係している。

こういつた街には、たいてい中心に大きな細長い広場があり、幅広い道とつながっている。もしくは大きな広場があちこちにあり、短い道でつながっている。こういつた広場は、たいていかつては市場だった場所で、それまでの市場が手狭になるとすぐに街の外側に新しくつくつて拡張していった経緯が現れている。

こういつた広がりを持つ街は、必ずしも絵になる風景ではないので、観光地としては少し刺激が足りないかも知れない。が、生活するために、または心を安らげに訪れるには

とてもよい場所なのではないだろうか。

街の中央通りにはカフェが並び、暑いときには街路樹の木陰で休めるベンチも多い。旧市街特有の窮屈さがなく、街全体がやすらぎ感を持っている。散歩していて気持ちがいい。最近では、これまでは単に閑散とした空き地のような場所も、公園のように整備し始めている。きっとこれからもっと魅力的な街が増えてくるだろう。

最後に、中東欧全体に視野を少し広げて、その中でハンガリーを見た場合、その魅力はこの国の持つ多様性とだと言えそうだ。

ハンガリーを見る場合は特に、現在の国境より少し視点を広げることが重要ではないだろうか。この国の面白さは、今の国境を絶対的なものとして見ても、ハンガリー人の単一民族国家として見てもなかなか見えてこない。現在のハンガリーの国境

が確定したのは第一次世界大戦の後で、まだ百年も経っていない。それ以前の国土は現在のスロバキア、ルーマニアなどを含む、現在の三倍以上の地域に広がっていて、（もちろん、こういった発言を現在の政治の問題として語るのは好きではないが）その中にはさまざまな文化が混在していた。ハンガリーの位置するカルパチア盆地では、ちょうど東西の文化が衝突し、定着している。西からのカトリックの文化が根付いたのはこの地域までで、ここより先は、東方正教会の影響を受けた文化圏になる。急峻な山脈に守られ、いわば西欧の防波堤としての役割を果たしてきた土地ともいえる。

こうした中、現在のハンガリーの建築にもハンガリー以外の様々な要素が潜んでいる。トルコの温泉、セルビア教会、ユダヤ教のシナゴークと、西欧の視点からは異質な文化もハンガリーの建築の中にはしつかり

溶け込んでいる。

ハンガリーを代表する建築家として知られているレヒネル・エデンはそれまでは存在しなかったハンガリー固有の建築を創作しようとした建築家だ。（レヒネルについては日本でも写真集などが出版されている）

レヒネルや同時代の建築家に見られた自国の独自性へのこだわりは、他の中欧諸国でも見られるものである。中欧は、西のドイツ・オーストリア、東のロシア、南のトルコと、力が強く求心力のある文化に囲まれて、その干渉と影響の中で独自性を模索し続けた地域である。「民族」という概念は、中欧の国々が独自性を主張するときのキーワードになり、各分野で新しい創作の源泉になり、文化圏の中間地帯だった中欧に各国ごとの個性を付け加えている。建築では民家や民芸のモチーフを取り入れ、国ごとの多様性をつくりだしている。ハンガリーはその中でもこの

「民族」がキーワードとして特に強い国で、現代の建築家にも大きな影響を及ぼしている。

こんなハンガリーの魅力にとりつかれて始めた私の研究も、そろそろまとめの時期に入ってきた。今年の夏で、三年に及ぶ留学も終わり、帰国することになる。それまでにどこまでこの国の魅力の神髄に迫れるか、これから追い込みが待っている。



作文 「文化祭」

ぶんかさい

小学部 二年 小池 太朗

ぼくが心にのこったものは、げきと、出店コンテストと、ドッジボールでした。

出店コンテストで一ばんおいしかったお店は、やきそばキングとまさおくんのふるさとでした。

ぼくたちがやったげきは、「ないた赤おに」でした。ぼくが、しゅじんこうでした。さいしよは、きんちゅうしたけど、たくさんれんしゅうをしていたので、ほんばんのときは、らくらくでした。

楽しかった文化祭

秋澤 謙吾

ぼくは、この文化祭で、いろいろなことを見たり食べたりして、楽しい日になりました。

その中で一番楽しかったのは、大きなかぶです。なぜならばハンガリー語や英語を使っていて、とてもおもしろかったからです。

あと出店では、ハンバーグがおいしかったです。だけど、初めに行った時ハンバーグが生でした。そしてぼくは、おなががいたくなりました。だけど、もう一回行ったら、すごくおいしかったです。

うれしかった文化さい

小学部 三年 上坂 緑

わたしの作文の題名は「うれしかった文化さい」です。なぜかというのと、たけるくん、すぐるくん、わたるくんといっしょにお店をまわれたからです。

やきそば屋さんでならんでいた時に、たけるくんもならんでいました。わたしは、クレープ屋さんからクレープを持ってきて、ならんでいる間に食べました。クレープはあまくて

おいしかったです。けれど、やきそばは、野さいがとってもかたかったです。(とくにキャベツ)でも、ぐらの歯がぬけやすくなったので、かんしゃしています。

その後に、おこのみやきをもらいに行ったけど、わたしはおこのみやきがあまりすぎじゃないので食べませんでした。「まさおくんのふる里」のハンバーグが一番おいしかったです。

来年も木村兄弟といっしょに行ける事をねがっています。

もっと味わいたかった文化祭

小学部 五年 村松 孝訓

「あっちー、だれかバトンタッチ!」。「えー。やだ。食べに行きたいから」。

この言葉でぼくは少しやりたくなかった。しかもこの後、ぼくは一度も食べに行けなかった。ぼく達はお好み焼き屋をやった。二つの場所

を使って、右サイドと左サイド。ぼくが焼いた方は左サイドで、なぜかこつちの方が行列ができていた。このせいでぼくは他の店に食べに行けなかったのだ。でも、中一が作ったハンバーグを持って来てもらったので、うれしかった。

閉会式の時、CMコンテストと出店のしんさ発表、二つとも「たまごなるど」が優勝して、少しくやしかった。けれど、新しい行事がふえてとても楽しかった。

そして、もう一つ。文化祭の名前「補習校ドリーム祭」、ぼくが考えた名前がのってうれしかった。

来年の文化祭で、ぼくは何の出店をやりたいか、もう決めている。また来年の文化祭が楽しみだ。



文化祭

小学部 六年 翠 直孝

文化祭で僕のチームは焼きそばを作った。まずは材料の買い物から始まった。文化祭の前の日に全員でカイザーに行く。材料は全て簡単に手に入った。が、問題は、そこから準備だ。

キャベツ、ニンジン、肉、前日に切っておかないと当日は、とてもじゃないけど間に合わない。文化祭当日も、朝七時から準備の仕上げをした。部屋のセッティングは終わり、焼きそばの方も準備完了だ。

店が開店した時、あつという間に人が集まり行列ができた。行列がなくなつたところには、もうめんはなくなっていた。だからメニューを焼きそばから野菜いために、変更した。僕らが予想した以上に店は大はんきょうだったので、出店コンテストで入賞するのではと、みんな自信が

でできた。コンテストでぼくのチームに入った点数は、たつたの4点。その結果は、かなりくやしかったが、それよりも、焼きそばが売切れるまで人が来てくれた、ということが、うれしさとして僕の心に残った。

実行委員になつてみて

中学部 一年 上坂 桃

今年の文化祭は、実行委員が中心となつて進めたので、生徒が文化祭を進める側に大きく関わりました。私は、実行委員だったので、司会をやつたり、三十秒CMコンテストや、出店コンクールのルールを決めたりと、文化祭に参加するだけではなく文化祭全体を進める側だったのでとてもおもしろかったです。

前日は、文化祭の準備で補習校に集まつて、夜八時ごろまで残り、CMコンテスト、出店、グループでの出し物の練習など、とても大変でし

た。

当日は、何事もうまくゆき、私の役割、司会もあまりかむこともなく、順調に進んだのでとてもよかったです。来年は、もっとうまくゆくように、がんばりたいです。

「一生けんめい」と「精いっぱい」

中学部 二年 村松 佳奈

今回で三回、文化祭をやったことになる私だけれど、もし誰かに、どの文化祭が一番良かったか、と聞かれたら、間違いなく、私の答えは「今年の文化祭」だと思う。

今まで文化祭、と言うと、何かにつけて先生方に頼りがちだった私は、今年の文化祭がとても新鮮に思えた。グループのメンバーを決めるところから、買い物も、店の出店場所を決めるのも、全て自分達。グループメンバーが四人だった私にとって、準備をするのは、決して楽しいことでは

なかった。補習校の準備期間だけではなく、アメリカンスクールの昼休みを使って、授業が始まる直前まで相談していたこともあったし、文化祭の前日も、午前中から夕方までかけて準備をした。確かに、大変だったし、疲れてくれたにもなつたけれど、私はそれが楽しかった。みんな一つのを一生けんめい作り上げていく、ということは、一人の時よりも難しいことだ。でも、だからこそ、精いっぱいやって作り上げたときの喜びも、大きい。自分一人じゃない、みんなで作っているんだ。そう思うと、準備も全然苦にはならなかった。

そして文化祭当日。私達のクレイプ屋は、前半だけで品切れになってしまった。喜んでいいのか、反省すべきなのか、それは分からないけれど、最初から最後まで精いっぱいやれたので、私は今回の文化祭に満足している。結果も、もちろん大事だ

けど、一生けんめいやって出た結果なら、納得できると思う。そんなわけで、前にも書いた通り、今回、自分達で作った文化祭は、今までで一番良かったと思っている。これからも、毎年こんな文化祭になるように、がんばろうと思う。



第一位

出会いと別れ

中学部 二年 高橋 真帆

私がハンガリーに引っ越してきて、もう三ヶ月が経ちます。私は今、ハンガリーでの友達にとても感謝しています。しかし、私がハンガリーに引っ越してきたばかりの頃は、友達も、知っている人もなく、分らないことが多すぎて、ハンガリーに来たことを何度も後悔しました。そんな時によく私の頭の中を駆け巡ったのは、サンディエゴにいる友達でした。

私たちがカリフォルニア州のサンディエゴに引っ越したのは私が小学校二年生の時でした。最初に困ったのは、誰でも同じ経験をしたと思いますが、まったく英語が喋れないことでした。友だちを作ろうとしても

そのきっかけが作れません。そんな時には同じクラスの日本人の友達がいつも通訳をしてくれていました。私はその子に何から何まで助けてもらったので、今でも感謝しています。彼女がいなかったら、私はとても苦労していたと思うし、友達も作れなかったと思います。しかし、その子も小学 年生の時に遠くへ引っ越してしまいました。最後に彼女が教えてくれた事は、皮肉にも親しい友達がいなくなる悲しさはこんなに大きいのだということでした。

時が過ぎてもっと英語が話せるようになってみると、友達との出会いが増えていきました。それもアメリカ人、中国人、韓国人など、同じ言葉を話さない人たちとの出会いです。私はこの時、英語を通じてまったく違う言葉話す人と親しくなれるということの素晴らしさを知りました。違う言語を身につける必要性を強く感じる事ができました。生まれた土

地も育った環境も違う人たちが友だちになることができるということはとても面白いものです。そして、アメリカの生活を満喫しているときに私にとって残念な知らせが届きました。父親のハンガリーへの転勤が決まったのです。

サンディエゴの補習校では多くの出会いと別れを経験してきましたが、ハンガリー行きが決まると、今度は私の方から友達へ別れを告げなければなりません。私がアメリカに来たころから一緒だった友達に、もう会えなくなると考えると、体から力が抜けるほど、悲しくなったのを今でも覚えています。でもこんな私に唯一の元気をくれたのは、大勢の親友みんなが集まって送別会などを開いてくれたことでした。私はこの時、たとえ離れても、友情は無くならないのだな、と思うことができました。一生同じ友達と友情を続けるということとは難しいと思っていた私でした

が、実際に別れを目の前にして、今の友達となら友情を続けられるかもしれないと思いました。

ハンガリーに来てからは、アメリカでの友達、そしてもちろんハンガリーで知り合った新しい友達、みんなに助けられています。その多くの友人のおかげで、こんなに楽しくアメリカンスクールでも、補習校でも過ごせていると思います。ハンガリーで知り合えた友達には、最初からとても優しくしてもらえました。私はハンガリーに来て、良い友人に出会えて良かったと、とても感謝しています。

友達と別れるのは確かにとても悲しいことです。しかし、その人と連絡をまめに取り合い、もっと親しくなれた時、または再会した時の感動は、「さよなら」をした日の悲しさなんかよりとても大きなものだと思実感しています。そして、多分これから、必ずいろんな出会いがあり、

また別れがあるでしょう。その時、私は、アメリカを去るときに、私の親友たちが私にしてくれたように、温かく送ってやりたいと思います。そしてハンガリーに来たときにここでの新しい友達が私にしてくれたように、私も誰かを支えてやれる存在になりたいと思います。



障害は個性

中学部 三年 佐藤 英陸

町の中を歩いていると、色々な人に出会います。ほとんどの人が私たちみたいで、健常者ですが、その中に、障害を持つ人を見かけることがあります。白い杖を持っている目の不自由な人、足が悪くて車いすに乗っている人、ダウン性などの病気を患っている人、そして、僕のフランスの友達のように、手話で話さなければならぬ難聴の人。その他、外出できず、家の中で寝て暮らす人だって、いるかもしれません。

さて、皆さんはそういう人たちを見て、どう思うでしょうか。健常者であったときと同じように自然に接することが出来るでしょうか。それとも、陰でヒソヒソ噂話をするのでしょうか。

僕の難聴の友人は苦勞しています。ある日、補聴器をつけていたとき、

それを見た小さな子どもが白く冷たい目をそつちに向けました。友人はそれに耐えられず、足早でその場から逃げました。障害を持つ人はみんな、この様な目に合うことが多いのではないのでしょうか。

なぜ、私たちは、障害者を見ると、つい、白い、興味深い目を向けてしまうのでしょうか。僕も以前は、障害者を見ると、(あつ、あのおじさん、足が悪いんやなあ)などと思いがながらジーンと見ていました。でも今は、障害を持つている人も同じ人間だということが分つてきました。僕が、ジーンと見ていた障害を持つた方々には、失礼な事をしてしまったと思つています。

フランスを去つてから、難聴の友達からこんなメールがきました。「君、耳が聞こえないのに、頑張つているね、と僕はよく言われる。でも、僕は、そんな言葉はあまり嬉しくないんだ」と。

確かに、友人が「話し」たり「聞く」ために取る動作は、僕たちから見ると不自由で、「頑張つている」ように見えるかもしれませぬ。僕だつて、足が不自由な人、目が見えない人を見ると、(頑張つとるんやなあ。大変やるうな)と思ひます。しかしこれは健常者の勝手な考えかも知れません。本当に、彼たちは生活の「コマ」コマで頑張つていてという意識があるのでしょうか。今、これをしてしなく困るから、生きて行けないから、やつていてのではないのでしょうか。例えば、僕の難聴の友人は、話したり、聞いたりすることが学校で勉強するためにはどうしても必要だからやつていてるのです。彼にとつては当たり前のことです。だから、それをいちいち「頑張つているね」と何か特別な事のように、言われたくないのでしよう。

後に彼は僕にこう言ひました。「耳が聞こえなくても出来ることは

いっぱいあるんだから、あまり耳が聞こえないということを特別視せず、(みんなと同じようにやつとるなあ)という印象が欲しいんだ」と。僕がフランスを去つてから一年後、彼から不思議なメールが送られてきました。そのメールには「障害は個性」と書いてあつたのです。

そのメールをもらつて、僕は彼が言ひたい事が解つた様な気がしました。

怒りつばかりたり、のんびりだつたり、数学が得意だつたり、スポーツ万能だつたりといった性質や性格と同じ様に、障害もそのひとつのもつ一つの個性として、認めて欲しいという事ではないのでしょうか。



書籍紹介

『新ネットワーク思考』

アルバート・ラスロー・バラバシ著

早稲田出版、2002年

盛田 常夫

今、アメリカでベストセラーの一つ。二 二年に出版され、現在も各国語の翻訳が企画され、すでに二カ国を超える言語で出版が予定されている。邦訳は各国語版に先立って、二 二年暮れに出版された。ハンガリー語版は二 三年夏に刊行。

著者のバラバシはルーマニア出身のハンガリー人物理学者で、大学教育をルーマニアで、大学院はブダペストのELTEB（物理学）で学んだ。現在、ノートルダム大学の物理学教

授で、ブダペスト高等研究所の研究員を兼ねており、年に一カ月をブダペストで過ごしている。

アメリカのノートルダム大学はハンガリーと縁が深く、放浪の天才数学者エルドウーシユ・パールがしばしば滞在し、教授招聘を受けたが、エルドウーシユは放浪の身を選んだと言われている。現在もハンガリーからの大学院留学生が多い。バラバシはコロジユバール（クルージュナポカ）出身で、彼の地からハンガリー人の優秀な人材を大学院生としてノートルダム大学に呼び、研究チームを作っている。

Linked: New Science of Networks

さて、本書の主題はネットワークだ。このテーマ自体はとくに目新しいものではないが、数学のネットワーク（グラフ）理論がWWW（World Wide Web）の急激な発展によって、新たな理論的挑戦を受けるようになった。はたして、WWWのネットワークは旧来のネ

ットワーク理論で説明がつくものなのか、それとも新たな理論的な発展を要請しているものなのか。もしそうであれば、新しいネットワーク理論はどのような特性をもつのか、そしてこの新しい理論はWWWの構造説明だけでなく、他の自然・社会現象の構造説明に適用できるのだろうか。これが本書を貫く主題である。

原題は*Linked*である。あらゆるものは連結されている。原子、分子、細胞から始まり、人間関係や現代のWWWまで、あらゆるものが「リンク」という視点から新たな解明の視点をを得る。

WWWのネットワークは平均的に分布し、連結されているネットワークではない。リンクが集結する重要なハブ（多数のリンクの結節点）がこのネットワークの中心を担っている。だから、もしネットワークを攻撃するのであれば、このハブを狙えば良い。逆に、ネットワークを防御したければ、ハブを中心に守るか、ハブが崩れた場合の

防御措置を講ずることが必要になる。同じことは、アルカイダのネットワークにも、エイズ拡散のネットワークについても言えるはずだ。ここでもハブを押さえることが重要になる。ところが、ハブを持ったネットワークは従来グラフ（ネットワーク）理論では扱えない。

新しいネットワーク理論を求めて、テーマは数学の伝統的ネットワーク理論の吟味から、MEMOのネットワーク理論の構築、さらに社会的領域や分子生物学、遺伝子工学や経済学への理論の適用にまで広がっていく。著者のバラバシはそのうまい語り口で全米テレビ放送に出演し、さながら現代ネットワーク理論の先導師の役割を果たしている。

六次元の関係

本書ではハンガリーの人脈がうまく活かされている。ハンガリーを代表する短編小説家カリンティ・フリジエ

シュに『鎖』（一九二九年）という小説がある。その中に次のような興味深い記述が見られる。

「地球上の人々はかつてないほど接近し合っている。そのことを証明するために、仲間の一人がある方法を提案した。その男は、地球上にいる十五億の人の中から一人の名前を挙げてみたまえと言った。彼はたった五人の知人を介して、名前の挙がった人物にまで鎖をつないでみせると言うのである」。

この短編の出版からほぼ三一年を経た一九六七年に、ハンガリー出身でハーバード大学の社会学教授スタンレイ・ミルグラムは、アメリカ国内に住むランダムに選ばれた二人の人物の距離（介在ステップ数）を測った実証論文を発表し、人の輪の連結（リンク）数は平均で五・五ステップだと記したのである。

これより小さな集団ではステップ数はもつと小さくなる。リンクの輪が

一つの小集団を構成しているようなものはクラスターと呼ばれる。

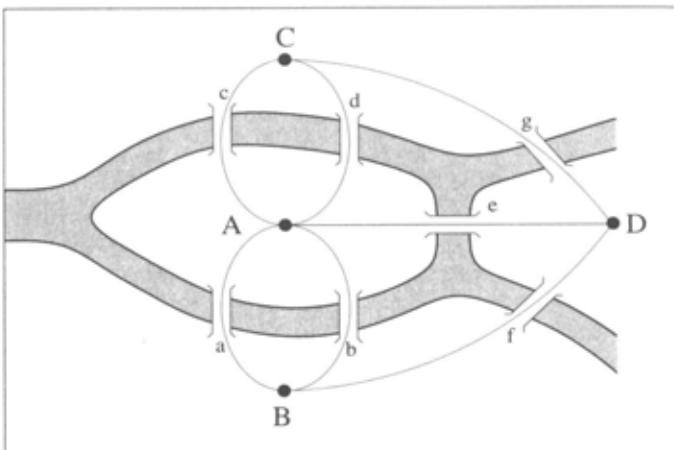
たとえば、ハンガリーの日本人社会は一つのクラスターだ。このクラスターの任意の二人の人物を挙げて、この二人が何人の知人を経由してリンクされるか見ると良い。ほとんどの場合、五ステップも辿らないうちにリンクされるはずだ。本書の著者バラバシとも、リンクのステップ数は五ステップも要らないだろう。というのは、ハンガリー立山研究所の株主であるチュルガイ教授はノートルダム大学の客員教授であり、バラバシの同僚でもあるから、評者の私は二ステップでバラバシと連結されている。私と「大吉」店主の飯尾さんとは一ステップで連結されているから、飯尾さんと一ステップあるいは数ステップでリンクされている人は、バラバシと五ステップ以内でリンクされていることになる。この場合、評者の私や飯尾さんはリンクを集めているハブになっている。ハ

ブを経由すると、リンク（ステップ）数を大幅に減らすことができる。

ネットワーク（グラフ）理論

現代のグラフ理論の出発点はオイラーによるケーニヒスベルグ橋の難問の解明にある。図のようなケーニヒスベルグのプレーゲル川にかかる七つの橋を、一度だけ通るような経路があるかどうか。これが「ケーニヒスベルグ橋の問題」である。オイラーは一七三六年に、四つの陸地を頂点（結節点「ノード」とし、七本の橋を一本の線（リンク）で現わすことで、この問題を「四つのノードと七つのリンクをもつグラフ問題」に帰着させた。これは一筆書きと同じ問題になり、出発点と終着点は奇数のリンクをもつことが必要条件になる。この問題の解が存在する。奇数のリンクをもつノードが二つ以上存在すれば、一筆書きはできない。ケーニヒスベルグの橋の場合、奇数のリンクをもつノードが四つあ

るので、解は存在しない。こうして、オイラーによって「ケーニヒスベルグの橋には一度だけ通るような経路がない」ことが証明されただけでなく、数学理論上初めて、グラフ理論が考案された。任意の事象がノードとリンク



から構成されるネットワークとして観察できれば、それはグラフ理論（ネットワーク理論）の対象になる。

正規グラフとランダム・ネットワーク

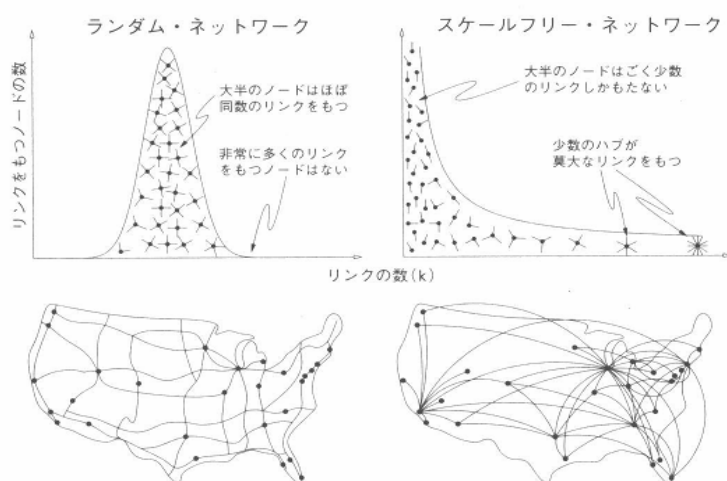
蜂の巣や鉱物の結晶のように、同じ形ものがリンクされているグラフ（ネットワーク）は正規グラフと呼ばれる。自然界、とくに無機物の世界にはこのような形のグラフ（ネットワーク）が数多く観察され、この図形の解明は正規グラフ理論の対象になる。

無機物の世界は正規グラフで説明がつくとしても、有機物の世界や人間社会は正規グラフの理論では説明がつきそうもない。これらの世界では同型のネットワークが広がるといっては、きわめて希な現象ではないからだ。そこで、この種の非正規グラフ（ネットワーク）を扱う理論として考案されたのが、エルドゥーシユとレーニのハンガリー人数学者のコンビになるランダム・グラフ（ネットワーク）

理論である。これはネットワークが生
成されていく原理を扱った最初の試
みで、この理論に従えば、「ネットワ
ークが十分に大きく、リンクが完全
にランダムに付け加えられるとす
ると、ほとんどすべてのノードは、
近似的に同数のリンクをもつよう
になる」。日本人会のような小さな
集団の中では、各人が保有する友
人の数はかなりばらつきがあるだ
ろうが、この集団を大きくしてい
けば、友人が格段に多い人は非
常に希で、ほとんどの人が平均
的な友人数を持つようになる、と
いうのがこの理論の意味である。

このランダム・ネットワーク理論
から得られる度数分布がポアソン
分布（一定の確率で散発的に生
じる事象の頻度を表わす）に従
うことは、エルドーシユの弟子
でありハンガリー人数学者（ケン
ブリッジ大学教授）のポロバシ
ユ・ヴェラによって、一九八二
年に証明された。ポアソン分布
は突出したピークのある度数分
布で、ピーク

の左右両側が急減に減少して小
さくなっていく。つまり、極端に
少ない、あるいは多い友人をも
つ人はきわめて少なく、ほとん
どの人はほぼ同数の友人をも
つというのが、ポアソン分布の
含意である。



スケールフリー・ネットワーク
バラバシのグループは一九九
年代半ばから、 \lll の広がりのマップ
を作成し、その広がりを観察し、
分析していた。このマップのデ
ータから分かったことは、ほと
んどのノード（ウェブ・サイト）
はわずかなリンクしか持たず、
ごく少数のハブが膨大なリンク
を持っているという事実だ。

これは簡単に実感されるところで、
評者のウェブ・サイトはYahoo Japan
にリンクされているだけだが、
Yahoo Japanは膨大なリンクを持
っている。このようなリンク数の
度数分布を両対数グラフで記すと、
滑らかな曲線で描かれる。そこ
にはピーク（平均的リンク）は存
在せず、両側の狭い領域に、少
数のリンクしかもたない多数の
ノードと、膨大なリンクをもつ
少数のハブノードが表現される。
このような形状をもつ分布は、「
ベキ法則」に従うという。分布
の裾野が指数関数的に減少して
いくので、このような名称が付

けられる。少し専門的になるが、バラバシの計算によれば、外に向かうリンクを n 個持つウェブ・サイトの数は、 $n^{2.5}$ ($n = 2.5$)と表わされる。

このような「ベキ法則」に従うネットワークとして、 $n \ll m$ のほかに、航空マップがある。これにたいして、高速道路のようなネットワークは、ランダム・ネットワークである。 $n \ll m$ が「ベキ法則に従う」ことを発見したのが、バラバシの研究グループである。この法則に従うネットワークには、当該ネットワーク系を特徴づける尺度（スケール）が存在しない。つまり、ピークが現れるような系では、「平均のノード」がその系を特徴づける尺度になるが、「ベキ法則」に従う系には、「系を特徴づける尺度」や「系を代表するノード」が存在しない。

ここから、「ベキ法則に従うネットワーク」を、バラバシは「スケールフリー・ネットワーク」と呼ぶ。そして、この「スケールフリー・ネット

トワーク」こそ、複雑なネットワークを解明する鍵だというのである。

二一世紀科学の課題

これまで、人類の科学は事象や物質を分析（分割）することに力を注いできた。そこから物質の構成物が明らかになった。

科学はもう一つ別の方法も使う。それは総合（統合）である。分析し、かつ総合することで科学は完結する。ところが、この分析と総合という二つの手法は、相互に対称的な手法ではない。たとえば、物質を分割することが簡単でも、それを元通りに復元することは非常に難しい。人間の細胞が蛋白質から形成されていると分かっても、今度は蛋白質から細胞を作っていくのは至難の業だ。

どうしてだろう。分割（分析）は関係性を断ち切る手法だが、総合（統合）は関係性を再構築する手法だからだ。前者の行為は関係性のすべてを知ら

なくても実行できるのに、後者の行為は関係性のすべてを知らなければ実行できない。だから、たとえば遺伝子が数万の塩基配列から構成されることが分かった段階（ゲノムマップの作成）でも、その逆の解明、つまり特定の遺伝子を構成する塩基配列から具体的な病気の発生を解明する作業は、ほんの始まったばかりである。

分子レベルから細胞、組織、器官へと統合していく過程には、気の遠くなるような膨大なネットワークが働いている。自然が何億年かけて形成してきたプロセスである。それを人間が再現しようとしているのである。たとえば、 n 個の同じ遺伝子をもつ二つの細胞があると、この細胞がとりうる行動（ n 個の遺伝子がそれぞれオン／オフになる状態）は、 2^n 通りある。遺伝子が百個としても途方もない数になるが、人間の遺伝子の数はおよそ三万である。もちろん、遺伝子が活性化する状況を限定することで、可能な関

係性を限定することは可能になるが、それでもかなり膨大な関係性を前提しないと、遺伝子の活性化を説明できないだろう。

まさに人類は二一世紀に入って、個別の遺伝子の活性化を説明する時代に入った。二一世紀が物理学の世紀だったとすれば、二一世紀は生物学の世紀だと言われる所以である。分子生物学から人間病状を説明することが期待される世紀になるはずである。その解明の一つの有力な手法が、固有の系に存在するスケールフリー・ネットワークを明らかにするだというのが、バラシ・グループの主張である。

最後に

本書に事例として採用されている経済学からのテーマは、きわめてナイーブに処理されている。一般受けを狙って、あまりに世俗的なテーマにまで下りすぎたという感を捨てきれない。とくにマイクロソフトの独占状態が、

「ボーズ・アインシュタイン凝縮」と同じ量子力学の法則に従っているという観察だ。この量子力学の法則は、気体の温度を下げていき、絶対零度の近くまで到達すると、原子が最低のエネルギー状態になるという事実をいう。競争がなく、独占状態にある市場が、これと同じだといふのである。しかし、これは形式的な類似現象に、物理学の法則を無理矢理当てはめただけだ。既存のネットワークが萎縮していくという現象が観察されるのなら、まだしも、最初から一人勝ちの完全独占に等しい市場を物理学の法則と同視する観察はいただけない。ノートルダム大学の社会科学系の同僚からも、ネットワーク理論の社会現象への適用に批判が寄せられているようだ。幸い、バラシは社会問題や経済問題に深入りすることなく、医学や生物学への道を進んでいるようだから、才能が無駄にされることはないと思う。今後の活躍に期待したい。

ハンガリー 日本人会事務所移転のお知らせ

二〇〇三年一月より下記に移転致しましたのでご連絡申し上げます。

ハンガリー 日本人会

Magyarországi Japánok Szervezete

Address: H-1054 Budapest V.

Zoltán u.13 I/1

Tel/Fax:

(+36-1)373-0400 (代表)

e-mail address:

nihonjinkai@axelero.hu T (代表)

表)

なお、商工部会事務も同所で行う事になりました。

e-mail address:

shokobukai@axelero.hu (代表)



『ドナウ通信』編集委員の募集

『ドナウ通信』の誌面改良のために、編集委員になって頂ける方を探しています。

編集委員は、年四回の会誌編集のために、企画を立案し、原稿を依頼することが主な仕事になります。それ以外の仕事は、編集委員長と事務局で対応いたします。

年四回の編集会議へ出席いただき、アイデアを出し、執筆者を紹介したり、自分で原稿を書いたりすることになります。

あくまでヴォランティアの仕事なので、報酬はありませんが、誌面を創ることに関心と興味がある方は、是非、ご参加ください。編集・割付や校正のノウハウなども実際に学ぶことができます。

編集にご参加いただける方は、盛田の所まで、メールでご連絡ください。

morita@tateyama.hu

携帯連絡先：06-30-311-5361

マラソンリレー参加者募集

ブダペストで開催されるマラソン/ハーフマラソンをリレーで走る、「日本・ハンガリー友好チーム」を結成します。男女別のチーム編成を予定しています。経験やスピードを問いません。ただし、それなりのトレーニングができることを条件に、希望者が全員走れる方法を考えます。

まず、六月初めには、国会周辺の一周七キロコースを六名で走るリレーがあります。

次に、九月五日に、国際ハーフマラソンをリレー（二名）で走る行事があります。最初の走者は一三キロ、第二走者が八キロになります。これは十月の国際駅伝の準備として、走ることを予定します。

最後は十月初めの国際マラソン兼駅伝マラソン大会です。最初の走者は一・二・六キロですが、後は六キロから八キロの間を、総勢五名で走ることに

なります。

国際マラソンの一週間後に、女子の一キロレースがあります。これが今年の最終ロードレース行事になります。毎年、女装の男性ランナーが何名か参加していますが、女子のレースです。

ハンガリー人の知人で、一緒に走れる人を推薦していただいても結構です。すべての行事のエントリーは一括しておこない、必要に応じて個人別の練習方法をアドヴァイスします。

参加希望者は、上記の盛田の連絡先まで一報ください。

編集室より

次号の『ドナウ通信』の原稿締め切りは、三月二日です。原稿はなるべくe-mailの添付ファイルでお願いします。文書は、Word文書あるいは「太郎」文書で、MS明朝の10点ポイントの縦書きで作成願います。手書の場合は、faxにて、日本人会事務局に送

ってください。